

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	静岡県立大学
設置者名	静岡県公立大学法人

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページに掲載 https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/media/R6zaimushohyou.pdf
収支計算書又は損益計算書	ホームページに掲載 https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/media/R6zaimushohyou.pdf
財産目録	—
事業報告書	ホームページに掲載 https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/media/R6zigyohoukokusho.pdf
監事による監査報告（書）	ホームページに掲載 https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/media/R6kannsaoukokusho.pdf

2. 事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：	対象年度：
公表方法：	
中長期計画（名称：静岡県公立大学法人 第4期中期計画	
対象年度：令和7年度～令和12年度）	
公表方法：ホームページに掲載	

<https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/corporate-info/plan-achievement/midterm-plan/>

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法：ホームページに掲載

<https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/guide/disclosure/evaluation/>

(2) 認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：ホームページに掲載

<https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/guide/disclosure/evaluation/>

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 薬学部
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/guide/disclosure/ed-information/)
(概要) 医療の進歩に対応できる専門的な知識・技術を有し、高い資質を身に付けた薬剤師を養成し、及び医薬品に関連する基礎知識・技術を習得し、創薬・育薬を総合的に理解できる人材を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/faculties/pharmaceutical-sciences/pha-policy/)
(概要) 以下に示した資質を身につけ所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学士(薬科学)又は学士(薬学)の学位を授与する。 (薬科学科：4年制) 1 幅広い教養と語学力 ・国内外の様々な分野で活躍するための広範で深い教養を身につけている。 ・グローバルに活躍できる語学力を有し、国際感覚を身につけている。 2 科学者としての倫理観 ・生命の尊厳を守るための強い倫理観を身につけている。 ・社会や公益に対する研究活動の責任・使命を理解し、健全な科学倫理観を身につけている。 3 高度な知識と技能 ・物理学・化学・生物学を基盤とする薬学的基礎知識・技能とその応用展開能力を身につけている。 ・創薬・生命薬学研究に必要な複数の薬学専門領域に関する知識・技能を身につけている。

4 独創性と問題解決能力

- ・創薬・生命薬学研究者に求められる独創性や問題解決の基礎的な能力を身につけている。
- ・創薬・生命薬学研究を自ら計画・遂行する知識及び技術的基盤を身につけている。

5 自己研鑽

- ・創薬・生命科学に関わる研究者として、常に自己を評価・省察し、さらに自らを高める意欲を身につけている。

(薬学科：6年制)

1 幅広い教養と語学力

- ・医療人に求められる高い教養を身につけている。
- ・グローバルに活躍できる語学力を有し、国際感覚を身につけている。

2 医療人としての倫理観

- ・生命倫理及び患者の人権を最優先するという強い倫理観を身につけている。
- ・患者の命を守るという強い責任感・使命感を身につけている。

3 高度な知識と技能

- ・基礎科学に裏打ちされた最先端の医療知識と技能を有している。
- ・情報共有及び課題解決に必要なコミュニケーション能力を身につけている。

4 高い臨床能力

- ・医療現場で遭遇する様々な問題を発見・解決する臨床的な能力を身につけている。
- ・薬物療法を提案・遂行する能力を身につけ、チーム医療に貢献できる。
- ・医療薬学に根ざした研究を計画・遂行する能力を身につけている。

5 自己研鑽

- ・医療人として、常に自己を評価・省察し、さらに自らを高める意欲を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ）

<https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/faculties/pharmaceutical-sciences/phapolicy/>

(概要)

(薬科学科：4年制)

1 幅広い教養と語学力

創薬・生命薬学研究者に求められる高い教養と世界に通用する語学力を修得するため、1～2年次において教養科目等や英語基礎科目を履修する。加えて地域社会に貢献できる能力を身につけるため「しずおか学」科目群からの履修を必須とする。3年次からは卒業研究配属研究室ごとに行う「総合薬科学研究」において、世界水準の独創的・先端的な研究を行う。4年次には「イングリッシュリサーチプレゼンテーション」を提供し、最新情報を外国語で収集し、自らの研究成果を世界に発信できる能力を身につける。

これらの評価には、知識レベルについては筆記試験やレポート、口頭試験を用いる。「総合薬科学研究」では、日々の形成的評価に加え、研究室セミナー等での発表において成長過程も併せて評価する。

2 科学者としての倫理観

薬科学とその関連領域に関する科学技術が社会に及ぼす影響の大きさを認識し、科学技術に携わる者の責任感と倫理観を涵養するために、講義科目（「命と倫理」等）に加え、幅広い職種に触れる科目（「薬学概論」「薬学講座」）や体験型学習（「早期体験学習」「科学演習」）を通して必要な知識を修得するとともに薬科学研究者としての自覚を育む。3年次からはより高度な倫理観と使命感を修得するため、配属研究室にて実施される「総合薬科学研究」における研究活動を通して、専門職業人として自立するために求められる医療倫理ならびに研究倫理に関する教育を行うとともに、社会の規範やルールを尊重する姿勢も涵養する。さらに全学年を対象とした「薬学講座」では、薬害被害者等の講演から、倫理観・使命感を体得する。

これらの評価には、知識レベルについては筆記試験やレポートなどを用いる。体験型学習や実習科目ではレポートやループブック等を用いて評価する。「総合薬科学研究」では、日々の形成的評価に加え、研究室セミナー等での発表、および卒業研究発表により達成度を評価する。

3 高度な知識と技能

1～2年次には、薬学人としての素養の修得を図り、薬学の概略や生物・物理・化学の基礎を身につけるための基礎科目及び共通専門科目を学修する。これらの科目の学修により薬科学研究への導入教育として医薬品およびその研究・開発等についての見聞を広め、さらに論理的思考、ディスカッション、プレゼンテーション等を体験し基礎能力を修得する。また、2～3年次には薬学に関する基礎知識の底上げを図るとともに、薬学専門科目の体系的な修得を進め、実験技能の修得のための実習科目（「物理系薬学実習」「化学系薬学実習Ⅰ・Ⅱ」「生物系薬学実習Ⅰ・Ⅱ」）を提供する。4年次には疾患に対して有効かつ安全な医薬品の創製および医薬品の基礎に関する薬科学専門科目（「医薬品製造開発論」「医薬品情報学Ⅲ」「薬学と社会Ⅱ」等）を提供する。これら基礎薬学の知識と技能の修得は、科学的思考に基づく問題発見・解決能力の基盤となり、それらの能力を実践的に活用し、高度

化するため3年次後期から「総合薬科学研究」に取り組む。本科目では各学生独自のテーマの研究を遂行することにより薬科学領域の知識、論理的思考や表現の手段を修得するとともに、科学的観点に立った問題発見および解決の基礎的能力を身につける。

これらの評価には、知識レベルについては筆記試験、レポートや口頭試験を用いる。「総合薬科学研究」では、日々の形成的評価に加え、研究室セミナー等での発表、および卒業研究発表により達成度を評価する。

4 独創性と問題解決能力

世界水準の先端的な研究を遂行するために必要な情報収集力、発想力、独創性、論理的思考力は、主に2年次から4年次前期に開講される科目を通して修得する。1～2年次に開講される基礎薬学の履修と関連させ、2～4年次に薬科学の知識を修得するための共通専門科目及び薬科学科専門科目を配置したカリキュラムを構成する。また実習科目（「医療系・生物系薬学実習」「薬剤系薬学実習」等）により、医療薬学や臨床薬学の知識や技能を修得する。特許法や知財管理の基礎を修得するための科目（「知的財産管理入門」）や、薬務行政・保健衛生に関連するレギュラトリーサイエンスを理解するための科目（「医薬品安全性学」「薬学と社会Ⅱ」等）も開講する。3年次後期から取り組む「総合薬科学研究」では、各学生独自のテーマの研究を遂行しつつ、研究者として活躍するために必須となる問題発見および解決能力を身につけ、学修した知識やスキルを統合し、問題解決と新たな価値の創造に繋げていく科学的思考能力を育成する。

これらの評価には、知識レベルについては筆記試験、レポートや口頭試験を用いる。演習科目や実習科目では、上記の評価方法に加え、プレゼンテーションやルーブリック等を用いる。「総合薬科学研究」では、日々の形成的評価に加え、学会・研究室セミナー等での発表、および卒業研究発表により達成度を評価する。

5 自己研鑽

創薬科学・生命薬学・医療薬学・臨床薬学及びその融合・接合領域の進歩に対応できるように、生涯にわたって自己研鑽し後進の教育に積極的に関わる使命感を涵養するための科目を1～4年次に履修する。「早期体験実習」「薬学概論」及び専門性の高い演習・実習科目により、主体的に学ぶ姿勢を涵養し、自己研鑽の重要性を感得する。「総合薬科学研究」では、チューター活動並びに研究活動を通して、生涯にわたる自己研鑽の態度を養い、後進の教育に積極的に関わることでその重要性や具体的技能を修得する。

これらの評価には、レポートやプレゼンテーション、ルーブリック等を用いる。

（薬学科：6年制）

1 幅広い教養と語学力

医療人に求められる高い教養と世界に通用する語学力を修得するため、1～2年次において教養科目等や英語基礎科目を履修する。加えて地域社会に貢献できる能力を身につけるため「しずおか学」科目群からの履修を必須とする。3年次からは

卒業研究配属研究室ごとに行う研究室セミナーである「総合薬学演習」及び卒業研究にあたる「総合薬学研究」において、学生独自のテーマについて研究を行いながら、最新情報を外国語で収集し、世界に発信できる能力を身につける。

これらの評価には、知識レベルについては筆記試験やレポート、口頭試験を用いる。「総合薬学演習」や「総合薬学研究」では、日々の形成的評価に加え、研究室セミナー等での発表において成長過程も併せて評価する。

2 医療人としての倫理観とコミュニケーション能力

生命倫理及び患者の人権を最優先するという強い倫理観と使命感を涵養し、医療人として必要なコミュニケーション能力を身につけるために、講義科目（「命と倫理」「医療とコミュニケーション学」等）に加え、幅広い職種に触れる科目（「薬学概論」「薬学講座」）や体験型学習（「早期体験学習」「科学演習」）を通して必要な知識を修得するとともに医療人としての自覚を育む。3年次からはより高度な倫理観と使命感を修得するため、実務実習科目関連科目（「実務事前実習」「薬局実務実習」「病院実務実習」等）を履修する。また「総合薬学演習」や「総合薬学研究」における研究活動を通して、自然科学と医療との結びつきを根源から深く理解し、人類の健康長寿に貢献することへの使命感を養成する。さらに全学年を対象とした「薬学講座」では、薬害被害者等の講演から、倫理観・使命感を体得する。

これらの評価には、知識レベルについては筆記試験やレポートなどを用いる。体験型学習や実習科目ではポートフォリオやルーブリック等を用いて評価する。「総合薬学演習」や「総合薬学研究」では、日々の形成的評価に加え、研究室セミナー等での発表、および卒業研究発表により達成度を評価する。

3 高度な知識と技能

基礎科学に立脚した最先端の薬物治療を理解するために、1～2年次には物理学、化学、生物学などを基盤とした基礎科目及び共通専門科目を学修する。これらの科目の学修によりディプロマ・ポリシー「高い臨床能力」を修得するための基盤を作る。また、2～3年次には基本的な研究手法を修得するための実習（「物理系薬学実習」「化学系薬学実習Ⅰ・Ⅱ」「生物系薬学実習Ⅰ・Ⅱ」）を実施する。これら基礎薬学の知識と技能の修得は、科学的思考に基づく問題発見・解決能力の基盤となり、それらの能力を実践的に活用し、高度化するため3年次後期から「総合薬学演習」と「総合薬学研究」に取り組む。それらの科目では各学生独自のテーマの研究を遂行することにより、先導的立場の薬剤師や研究者に求められるより高度な科学的知識と問題解決能力を身につける。

これらの評価には、知識レベルについては筆記試験、レポートや口頭試験を用いる。「総合薬学演習」や「総合薬学研究」では、日々の形成的評価に加え、研究室セミナー等での発表、および卒業研究発表により達成度を評価する。

4 高い臨床能力

薬物療法を提案し主体的にチーム医療に参画するために必要となる知識は、主に2年次から4年次前期に開講される科目を通して修得する。1～2年次に開講される基礎薬学の履修と関連させ、2～4年次に医療薬学の知識を修得するための共通専門科目及び薬学科専門科目を配置したカリキュラムを構成する。また実習科目

（「医療系・生物系薬学実習」「薬剤系薬学実習」等）により、医療薬学や臨床薬学の知識や技能を修得する。薬務行政・保健衛生に関連するレギュラトリーサイエンスを理解するための科目も1～4年次に開講される。さらに、学年進行に合わせて、学生の知識レベルに配慮した臨床症例を題材として、知識を統合して薬物治療を提案できる能力を養成する。実務実習科目（「薬局実務実習」「病院実務実習」等）では、実際の医療現場で主体的に薬物療法を提案し、チーム医療への参画を実践することにより、より高度な臨床能力を身につける。6年次には「臨床薬学演習」にチューターとして参画することにより、それまでの学修を振り返ることで知識の定着をはかる。3年次後期から取り組む「総合薬学演習」と「総合薬学研究」では、各学生独自のテーマの研究を遂行しつつ、医療・薬務行政・保健衛生・医薬品開発等に携わることのできる高度な臨床知識や問題解決能力を身につける。

これらの評価には、知識レベルについては筆記試験、レポートや口頭試験を用いる。演習科目や実習科目では、上記の評価方法に加え、ポートフォリオやルーブリック等を用いる。「総合薬学演習」や「総合薬学研究」では、日々の形成的評価に加え、学会・研究室セミナー等での発表、および卒業研究発表により達成度を評価する。

5 自己研鑽

創薬科学・生命薬学・医療薬学・臨床薬学及びその融合・接合領域で先導的役割を担い、生涯にわたって自己研鑽し後進の教育に積極的に関わる使命感を涵養するための科目を1～6年次に履修する。「早期体験実習」「薬学概論」及び実務実習科目（「薬局実務実習」「病院実務実習」等）により、幅広い職種に触れロールモデルから自己研鑽の重要性を感得する。「臨床薬学演習」（6年次）、「総合薬学演習」や「総合薬学研究」では、チューター活動並びに研究活動を通して、生涯にわたる自己研鑽の態度を養い、後進の教育に積極的に関わることでその重要性や具体的技能を修得する。

これらの評価には、レポートやポートフォリオ、ルーブリック等を用いる。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ）

<https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/faculties/pharmaceutical-sciences/phapolicy/>

（概要）

（薬科学科：4年制）

倫理観を含め大学人としての教養を身につけ、世界に通用する語学力を養うとともに、薬学の基盤となる知識とその応用展開能力を醸成し、医薬品の研究・開発で活躍できる人材の育成に努めている。また、大学院への進学を想定して、創薬・生命薬学研究を担う創造力豊かな研究者や高度専門職業人の養成を目指している。これらの教育目標及び方針に立脚し、健全な倫理観を備え、薬学人として社会に貢献したいという強い信念と情熱を持ち、学習意欲と科学的探求心を有し、社会のニーズに柔軟に対応できる創造力と論理的思考力を有する人材を歓迎する。加えて、基礎薬学に軸足を置き、物理学・化学・生物学を基盤とした創薬研究や生命薬学研究に高い集中力で取り組める学生を求めている。

(薬学科：6年制)

倫理観を含め大学人としての教養を身につけ、世界に通用する語学力を養うとともに、薬学の基盤となる知識とその応用展開能力を醸成し、医療現場で活躍できる人材の育成に努めている。また、医療の担い手として貢献する指導的立場の薬剤師や医療薬学領域の研究者の養成を目指している。これらの教育目標及び方針に立脚し、健全な倫理観を備え、薬学人として社会に貢献したいという強い信念と情熱を持ち、学習意欲と科学的探求心を有し、社会のニーズに柔軟に対応できる創造力と論理的思考力を有する人材を歓迎する。加えて、医療や薬物治療に対する問題意識を常に持ち、他者と意見交換しながら論理的に問題解決へ向けて取り組む学生を求めている。

学部等名 食品栄養科学部

教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ）

<https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/guide/disclosure/ed-information/>

（概要）

食品・栄養・環境に関する基礎知識及び関連する基本的技術を習得し、「食と健康」に関する科学の発展と実践に貢献できる人材を養成する。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ）

<https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/faculties/food-nutrition/nut-policy/>

（概要）

以下に示す力を身に付けるために編成された教育課程において学修し、所定の期間在学して卒業に必要な単位を修得した学生に卒業を認定し、学士（食品栄養科学）の学位を授与する。

（食品生命科学科）

- 1 幅広い教養を身に付けた上で、食と健康に関わる食品科学を理解するために必要な自然科学および情報技術などに関する基礎知識を有している。
- 2 食品科学に関する広範な知識と関連技術に基づき、食品に関わる諸問題の解決策を提示できる論理的思考力と問題解決能力を備えている。
- 3 食品科学に関する知識・技術・情報を自ら収集・理解し、それらを活用して研究する能力を備えている。
- 4 食品科学に関する専門英語を理解し、英語による基礎的なコミュニケーション能力を有している。
- 5 豊かな人間性と食の安全に対する高い倫理観を有し、協調性や指導力をもって

他職種と協働・連携することができる。

- 6 食品技術者としての社会的な役割と責任を理解し、食品関連産業の発展に貢献することができる。

(栄養生命科学科)

- 1 幅広い教養を身に付けた上で、食と健康に関わる栄養科学を理解するために必要な自然科学および情報技術などに関する基礎知識を有している。
- 2 食と健康に関する広範な知識と関連技術を駆使して、栄養に関わる諸問題の解決策を提示できる論理的思考力と問題解決能力を有している。
- 3 栄養科学に関する知識・技術・情報を自ら収集・理解し、それらを活用して研究する能力を備えている。
- 4 栄養科学に関する専門英語を理解し、英語による基礎的なコミュニケーション能力を有している。
- 5 創造性あふれる豊かな人間性と栄養科学の専門家としての倫理観を有し、協調性や指導力をもって他職種と協働・連携することができる。
- 6 管理栄養士として人間の健康と長寿を支える栄養に関わる諸問題の解決に貢献することができる。

(環境生命科学科)

- 1 幅広い教養を身につけた上で、食と健康に関わる環境科学を理解するために必要な自然科学および情報技術などに関する基礎知識を有している。
- 2 食と健康に関わる環境分野の知識と技術に基づき、環境に関わる諸問題の解決策を提示できる論理的思考力と問題解決能力を備えている。
- 3 環境科学と生命科学に関する知識・技術・情報を自ら収集・理解し、それらを活用して研究する能力を備えている。
- 4 環境に関する専門英語を理解し、英語による基礎的なコミュニケーション能力を有している。
- 5 豊かな人間性と環境保全に対する高い倫理観を有し、協調性や指導力をもって他職種と協働・連携することができる。
- 6 環境計量と環境・生体影響評価に関する知識や技術を修得し、環境保全や食の生産に貢献することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ

<https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/faculties/food-nutrition/nut-policy/>)

(概要)

(食品生命科学科)

食品生命科学科では、ディプロマ・ポリシーに基づき、教養科目および専門科目を系統的かつ段階的に学べるよう、次に示すカリキュラムを編成している。なお、本カリキュラムは日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定プログラムとなっており、修了生は技術士(国家資格)の一次試験が免除される。

- 1 全学共通科目の履修により幅広い教養を身に付けた上で、「化学」「物理学」「生物学」「情報科学」などの学部基礎科目を履修し、食と健康に関わる食品科学の理解に必要な基礎知識と基礎技術を培う。
- 2 専門教育科目で食と健康に関わる科目を履修し、食品栄養科学と生命科学に関する広範かつ専門的知識と方法論を身に付ける。
- 3 実験・実習を履修し、広範な知識と関連技術を駆使して問題を解決できる能力を養うとともに、卒業研究などの科目を履修し、食品科学に関する知識・技術・情報を自ら収集・理解し、それらを活用して研究する能力を養う。
- 4 英語科目の履修により、英語による基礎的なコミュニケーション能力を養う。
- 5 専門科目として「技術者倫理」などの科目を履修し、食品技術の社会に対する効果を地球規模で理解するとともに、食品技術者の社会に対する責任への理解・倫理観を醸成する。
- 6 実習科目や卒業研究などの科目の履修を進める過程で、食品技術者として計画的に仕事を遂行できる能力を養い、協調性や指導力を育成する。
- 7 高等学校教諭一種免許状(理科)、食品衛生監視員、食品衛生管理者など、各種の資格等の取得に必要な科目を設置している。

1～2年次には、化学、物理学、生物学、英語などの学部基礎科目を重点的に学ぶ。2～3年次には、食品化学、食品工学、有機化学、微生物学、食品衛生学などの専門科目が実験や実習とともに配置されている。4年次には、研究室に配属されて卒業研究を行い、卒業論文にまとめて発表する。

学修成果の評価は、各科目の到達目標に対応して行う。

(栄養生命科学科)

栄養生命科学科では、ディプロマ・ポリシーに基づき、教養科目および専門科目を系統的かつ段階的に学べるよう、次の通りカリキュラムを編成している。

- 1 全学共通科目の履修により幅広い教養を身に付けた上で、「化学」「化学実験」「生物学」「生物学実験」などの学部基礎科目を履修し、食と健康に関わる栄養

科学の理解に必要な基礎知識と基礎技術を培う。

- 2 専門教育科目として、栄養科学に関する専門基礎分野と専門分野の科目をそれぞれ体系的に設置し、高度栄養専門職に必要な食と健康に関する広範かつ専門的知識と方法論を身につける。
- 3 校内での実験実習、校外実習、臨地実習、総合演習を配置し、管理栄養士の役割と責務を自覚するのみならず、管理栄養士として必要な知識や倫理観、実践的な能力および食と健康に関する諸問題の発見、分析、解決へとつなげる力を醸成する。
- 4 栄養に係る教育や教職に関する科目を配置し、栄養教諭の職務である「食に関する指導」と「学校給食の管理」の基礎力と応用力を身につけ、高度なコミュニケーション能力や豊かな人間性と倫理観を備え、多面的な問題解決能力と実力を養う。
- 5 学部共通科目の英語科目および栄養に関する科学英語科目を配置し、英語による情報収集や基礎的なコミュニケーションができる能力を育成する。
- 6 身につけた知識やスキルを統合し、卒業研究に取り組み、栄養科学に関する知識・技術・情報を自ら収集・理解し、それらを活用する能力を身につける。さらに、卒業論文の作成、発表を通じて論理的な記述・発表・質疑応答・討論ができる能力を養う。
- 7 栄養士免許、管理栄養士国家試験受験資格、栄養教諭一種免許状、食品衛生監視員、食品衛生管理者など、各種の資格等の取得に必要な科目を設置している。

1～2年次には、化学、物理学、生物学、英語などの学部基礎科目を重点的に学ぶ。2～3年次には、生化学、生理学、食品化学、調理化学、基礎および応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論などの専門科目が実験や実習とともに配置されている。4年次には、研究室に配属されて卒業研究を行い、卒業論文にまとめて発表する。

学修成果の評価は、各科目の到達目標に対応して行う。

(環境生命科学科)

環境生命科学科では、ディプロマ・ポリシーに基づき、教養科目および専門科目を系統的かつ段階的に学べるよう、次に示すカリキュラムを編成している。

- 1 全学共通科目の履修により幅広い教養を身につけた上で、「化学」「化学実験」「生物学」「生物学実験」などの学部基礎科目を履修し、食と健康に関わる環境科学の理解に必要な基礎知識と基礎技術を培う。
- 2 専門教育科目で食と健康に関わる科目を履修し、さらにフィールドワークや環境

生命科学実験の履修を通して、環境分野における諸問題を解決へとつなげる力を養う。

- 3 環境科学と生命科学に関する専門教育科目を履修した上で卒業研究に取り組み、研究する力を身に付ける。
- 4 学部基礎科目および専門教育科目の英語に関する科目の履修を通して、環境の分野で英語による情報収集や基礎的なコミュニケーションができる能力を育成する。
- 5 環境科学や技術者の倫理に関わる専門教育科目を履修し、環境分野の専門家として社会に対する責任についての高い見識を養う。
- 6 環境計量、生態・生体影響、食の生産および環境保全に関する科目を総合的に学び、環境分野の専門家として論理的思考力と問題解決能力を養う。
- 7 高等学校教諭一種免許状（理科）、食品衛生監視員、食品衛生管理者など、各種の資格等の取得に必要となる科目を設置している。
- 8 環境計量士、公害防止管理者、放射線取扱主任者、気象予報士などの資格に関して、関連する知識を習得することができる科目を設置している。

1年次には、教養科目と学部基礎科目、2年次には、フィールドワークや食と人間の健康に関わる専門教育科目を段階的に学ぶ。3年次には、多様な実習や専門科目を履修して、社会に対する責任を理解し環境分野の専門家として活躍できる能力を養う。4年次には、これまでに培った知識や技能を生かして、卒業論文作成を行うことで専門性を高め、セミナーや発表会などを通してプレゼンテーション能力を育成する。

学修成果の評価は、各科目の到達目標に対応して行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ）

<https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/faculties/food-nutrition/nut-policy/>

（概要）

（食品生命科学科）

食品生命科学科は、次のような学生を求めている。

- ・ 食と健康に関心が高く、食を通して社会に貢献したいという意欲のある人
- ・ 食品の生産、開発、評価に必要な技術や探究心、思考力を身につけて、食品技術者・研究者として活躍したい人
- ・ 自ら考えて学ぶ意欲があり、地球的視点から多面的に物事を考えることができる人
- ・ 専門的な知識と実践的な能力を身に付け、食品技術者として活躍することを目指す人

食品科学とその基礎をなす数学、物理、化学、生物学の習得に必要な学力を有し、食品の生産、開発、評価に必要な技術や、技術者として求められる探求心、論理的な思考力、多様な人々と連携・協働するためのコミュニケーション能力、総合的な問題解決能力を身に付けられる人を求めている。

(栄養生命科学科)

栄養生命科学科は、次のような学生を求めている。

- ・ 食と健康に関心が高く、人々の健康増進と保健・医療へ貢献したいという意欲がある人
- ・ 栄養科学の専門家として、情報収集能力、論理的思考力、問題解決能力、コミュニケーション能力など、実社会で活躍するための実践的な能力を身につけたい人
- ・ 病院、行政、小中学校等において管理栄養士または栄養教諭として活躍するために必要な基礎および専門的な知識と実践的な能力を身につけたい人
- ・ 高度な専門知識と能力を身につけ、研究者、高度専門技術者、指導的立場を担う管理栄養士を目指す人

栄養科学とその基礎をなす数学、物理、化学、生物学の習得に必要な学力を有し、管理栄養士に必要な技術や、栄養科学分野の技術者として求められる探求心、論理的な思考力、多様な人々と連携・協働するためのコミュニケーション能力、総合的な問題解決能力を身に付けられる人を求めている。

(環境生命科学科)

環境生命科学科は、次のような学生を求めている。

- ・ 食と健康に関心が高く、より良い環境の創造を通して社会に貢献したい人
- ・ フィールドワークや実験を根気強く行う忍耐力や集中力を有する人
- ・ コミュニケーション能力を有し、他人と協調して自ら積極的に行動できる人
- ・ 環境に関する地域の課題からグローバルな問題、さらには微生物からヒトまでの生命のしくみについて幅広い興味を有する人
- ・ 高度な専門知識と能力を身につけ、研究者や高度専門技術者として指導的立場を担う環境の専門家を目指す人

環境科学とその基礎をなす数学、物理、化学、生物学の習得に必要な学力を有し、環境に関わる諸問題の解決に必要な技術や、技術者として求められる探求心、論理

的な思考力、多様な人々と連携・協働するためのコミュニケーション能力、総合的な問題解決能力を身に付けられる人を求めている。

学部等名 国際関係学部

教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ

<https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/guide/disclosure/ed-information/>)

（概要）

グローバル化に対応するために、多様な言語・政治・経済・文化等を理解・尊重し、国際社会において活躍できる人材を養成する。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ

<https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/faculties/international-relations/int-policy/>)

（概要）

（国際関係学科）

国際関係学科は、現代の国際社会、国家、および地域社会が抱える諸課題を発見し、その解決策を探究できる人材を育成することを目標としている。このための専門課程として、国際公共政策、国際開発、共生社会の3つの専門プログラムを設置している。学生はいずれかの専門プログラムを選択し、所定の科目を修得することで学士（国際関係学）の学位を授与される。授与に際しては以下の内容が重視される。

- 1 国際関係にかかわる研究領域について、学術的読解・表現力、外国語によるコミュニケーション能力、基礎的教養、地域研究能力等の基礎的な研究技法を身につけている。
- 2 国際関係にかかわる研究領域の学知に習熟し、その観点から特定の研究課題を発見し、必要な情報を収集・分析して、批判的かつ論理的な思考力によって探究できる能力と、その成果を他者と共有し得る能力を備えている。
- 3 国際社会、国家、および地域社会がかかえる様々な諸課題についての多角的な知識を有し、修得した研究技法を柔軟に応用することを通じて、国際社会から地域社会に至る幅広い射程のもとで、社会の現状と課題を的確に理解することができる。
- 4 修得した学知を通じて、国際社会、国家、および地域社会が抱える諸課題に対して、その前提を再考したり、新たな課題を発見したりしながら、他者と協働して課題解決に取り組むことのできる実践的な能力を備えている。

(国際言語文化学科)

国際言語文化学科は、世界の言語と文化の多様性を理解し、実践的なコミュニケーション能力をもって、国境を越えて人と人をつなぐ架け橋となり得る人材を育成することを目標としている。このための専門課程として、グローバル・コミュニケーション、比較文化、日本研究、アジア研究、ヨーロッパ研究の5つの専門プログラムを設置している。学生はいずれかの専門プログラムを選択し、所定の科目を修得することで学士（国際言語文化学）の学位を授与される。授与に際しては以下の内容が重視される。

- 1 国際関係にかかわる研究領域について、学術的読解・表現力、外国語によるコミュニケーション能力、基礎的教養、地域研究能力等の基礎的な研究技法を身につけている。
- 2 国際関係にかかわる研究領域の学知に習熟し、その観点から特定の研究課題を発見し、必要な情報を収集・分析して、批判的かつ論理的な思考力によって探究できる能力と、その成果を他者と共有し得る能力を備えている。
- 3 世界の言語と文化についての豊富な知識を持つことによって、それらを的確に理解し、分析する能力を獲得し、グローバルな視野と柔軟な姿勢を身につけている。
- 4 多様な言語と文化の理解を前提とした実践的なコミュニケーション能力を獲得することを通じて、様々な言語文化的背景を持った人々と円滑に協働することができ、言語や文化の壁を越えて、人と人をつなぐ架け橋となり得る能力を備えている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ）

<https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/faculties/international-relations/int-policy/>

(概要)

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示される能力を有する人材を育成するため、以下の観点から教育課程を編成し、実施する。

- 1 本学部では、国家間の関係を踏まえつつ、国境や文化の壁を越えて人と人を結び、地球と地域の課題に協力して取り組むことのできる課題発見・解決型人材を育成するための体系的かつ順次的なカリキュラムを編成している。
- 2 本学部生は、低年次の基礎教育課程において、まず、国際関係学部で学ぶ基礎的な研究能力と社会人基礎力を身につけることを目標として学ぶ。
- 3 このために、本学部のカリキュラムでは、低年次において学生が身につけるべき基礎的能力を4つのラーニング・クラスター（アカデミック・リテラシー、英語コミュニケーション力、地域実践力、学部基礎力）として明示する。
- 4 学生はこれらの4つの能力をバランス良く身につけることを通じて、国境や文化の壁を乗り越えるコミュニケーション能力と、地球と地域の課題に取り組むことのできる課題発見・解決能力の基礎を形成する。また、低年次におけるラーニング・クラスターと高年次における専門プログラムを接続するためのブリッジ科

目を学科ごとに定めている。これらを通じて、国際関係にかかわる多様な専門領域に触れて刺激を得ることで、将来進むべき専門プログラムを選択する準備を整える。

- 5 高年次においては、特定の専門プログラムを選択し、低年次において培った基礎的研究能力を実際に駆使しながら、それぞれのキャリアパスを見据えた専門的な学びを構築し、実社会の現場で活躍できる能力を完成させる。このために、国際公共政策、国際開発、共生社会（以上国際関係学科）、グローバル・コミュニケーション、比較文化、日本研究、アジア研究、ヨーロッパ研究（以上国際言語文化学科）の8つのプログラムを設置している。さらに各プログラムと連動した少人数演習（ゼミ）に分かれてその専門的な学びを重点的に深化させる。
- 6 最終的に、各学生が特定の研究課題を深く探究する卒業研究に取り組むことを通じて、課題の発見と解決に自力で挑戦することで、4年間の学びを総括し、卒業後のキャリア形成に繋げる。
- 7 教員免許状、日本語教員養成、社会調査士など、各種の資格等の取得に必要な科目を設置している。
- 8 授業内容を習得するために十分な学習時間を確保することを目的として、GPA（成績評価平均値）に基づくCAP（履修登録単位数制限）制を設定している。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ）

<https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/faculties/international-relations/int-policy/>

（概要）

国際関係学部は、国際社会で活躍できる人材の育成を目指している。具体的には、地球規模の視点と地域規模の視点を兼ね備え、さまざまな課題に対して適切に判断を下して行動できる、21世紀型地球市民としての優れた人材の育成を目指している。そのために、以下のような学生を求めている。

- 1 国語、外国語、数学等の学習を通して、文章の読解力や表現力、コミュニケーション力、論理的思考力等を身につけている人。
- 2 地理歴史や公民等の学習を通して、国際関係を理解するための前提となる、さまざまな地域の歴史や社会についての基礎知識を身につけている人。
- 3 さまざまな分野に知的好奇心を持つとともに、主体的な問題意識に基づく探究心を持って、情報収集や考察を行える人。
- 4 21世紀の激動する世界の動向に関心を持ち、国際関係の専門領域を学びたいと考えている人。あるいは、国家の枠組みを越えた集団や個人間の多様な関係について学びたいと考えている人。また、それらの学習を通して、グローバル化した世界や地域で活躍したいと考えている人。
- 5 人と人との関わりに興味を感じ、他者理解に豊かな想像力を駆使できるとともに、日本をはじめとする世界のさまざまな地域の言語や文化について、深く学びたいと考えている人。また、それらの学習を通して、グローバル化した世界や地域で活躍したいと考得ている人。

学部等名 経営情報学部
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/guide/disclosure/ed-information/）
（概要） 情報処理能力とマネジメント力を兼ね備えた、企業や地域社会に貢献することができる人材を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/faculties/management-information/man-policy/）
（概要） 経営情報学部は、静岡県立大学学則に定める本学部の「人材養成等教育研究上の目的」を達成するため、教育課程（カリキュラム）を編成・実施しているが、学位（経営情報学）の授与に関する基本的な考え方は以下のとおりである。 「『経営』『総合政策』『データサイエンス』『観光マネジメント』の4分野の融合と専門性により、現代社会の各分野でイノベーションを担う問題解決型の人材を育成する」 経営情報学部は、経営能力、政策企画力、情報学的解決能力を兼ね備え、これに加えて観光についての知識と能力を有し、社会の各分野においてイノベーションを担うことにより現代社会の課題を解決して、企業や地域社会に貢献する人材の育成を目標としている。学生は、所定の科目を習得することで学士（経営情報学）の学位を授与されるが、授与に際して以下の内容が重視される。 1. 「経営」「総合政策」「情報」「観光」「数理」を深く学ぶことによって、それらを活用することができる能力を身に付けている。 2. 自ら研究課題を設定し、必要な情報を収集・分析して、論理的な思考力によって課題を探究し、克服していく能力と、自己の見解を文字及び口頭で表現できる能力を備えている。 3. 企業や地域社会への高い関心とそれらへの貢献に対する意欲を持ち、社会の様々な場で円滑なコミュニケーションを図ることができる。 4. 習得した知識や技能を柔軟に応用し、実社会で十分に活躍できる能力がある。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ

<https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/faculties/management-information/man-policy/>)

（概要）

経営情報学部は、静岡県立大学学則に定める本学部の「人材養成等教育研究上の目的」を

達成するため、以下の方針にしたがって教育課程（カリキュラム）を編成し、実施する。

1. 「経営」「総合政策」「データサイエンス」「観光マネジメント」の4分野の専門的能力及びそれらを融合的に活用できる能力を育成するため、教育課程を編成する。
2. 授業の形態（講義・演習）と規模の適切な選択に基づき、効果的な教育方法を用いた授業を実施する。
3. 「経営」「総合政策」「情報」「観光」「数理」「英語」についての基礎的な知識や技術について習得するための学部基礎科目を配置する。
4. 「経営」「総合政策」「データサイエンス」「観光マネジメント」について、より高度な専門性を身に付けるため、専門科目群を配置して、体系的・順次的に学習を進めるために配当年次を設定する。また、各分野の境界的・融合的な能力を身に付けるための複合科目を配置する。高度な専門性を身につけた学生に対して、「経営」「総合政策」「データサイエンス」「観光マネジメント」のメジャーを認定する。
5. 少人数で実施されるゼミに所属して、「演習」等によって特定領域の研究を深め、学修の成果を卒業研究として完成させる。
6. 高等学校教諭一種免許状「数学」「情報」「商業」、簿記検定試験などの資格取得に必要となる科目を設置する。
7. 授業内容を習得するために十分な学習時間を確保することを目的として、GPA（成績評価平均値）に基づくCAP（履修登録単位数制限）制を設定する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/faculties/management-information/man-policy/）
（概要） 経営情報学部では、「経営」「総合政策」「データサイエンス」「観光マネジメント」の4分野の融合と専門性により、現代社会の各分野でイノベーションを担う問題解決型の人材を育成するため、次のような学生を求めている。 1 「経営」「総合政策」「データサイエンス」「観光マネジメント」のいずれかの分野に関心をもち、専門的な知識と能力を身につけたい人 2 一つの分野以外にも興味をもち、融合して活用する能力を身につけたい人 3 与えられた問題を解くだけでなく、自ら問題を発見し、どう解決するか、どのように役立てていくかを考える能力を身につけたい人 4 企業経営・公共経営・観光経営などに高い関心をもつ文系志向の人、または、データサイエンスに興味をもち、数学や自然科学などの学力のある理系志向の人 5 「経営」「総合政策」「データサイエンス」「観光マネジメント」の4つの分野の基本的知識とコミュニケーション能力を身につけた社会人を目指す人

学部等名 看護学部
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/guide/disclosure/ed-information/）
（概要） 少子高齢社会の健康の護り手として人々の生活を支援するため、確かな看護判断能力と実践能力を身に付け、他専門職と協働して健康上の課題に創造的に対応できる人材を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/faculties/nursing/nur-policy/）
（概要） 下記の能力・資質を修得・涵養し、時代の要請と地域社会の要望に応え得る人材に学位を授与する。 1 幅広い教養を身につけ、「ひと」および「ひと」を取り囲む生活や地域社会、環境に関する知識を有している。 2 豊かな人間性と倫理観を持ち、科学的根拠に基づいた思考・判断を説明できる。

- 3 あらゆる「ひと」と地域社会の健康課題とそれらに対する対応を統合的に考え看護を実践できる。
- 4 チームの一員として、健康の課題や地域社会の課題に対する解決策を表現できる。
- 5 社会の動向及び保健医療福祉の課題や政策に関心を持つことができる。
- 6 看護学の発展に寄与するために、探求心と主体性を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ

<https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/faculties/nursing/nur-policy/>)

（概要）

本学部は、本学の卒業認定・学位授与の方針に掲げる知識・能力などの目標を達成するために、1 基礎分野Ⅰ、2 基礎分野Ⅱ、3 専門基礎分野、4 看護専門分野の教育科目群を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を開講する。

- 1 基礎分野Ⅰ：5学部横断型の全学共通科目として、広い教養と知識を学び、総合的かつ自主的な判断能力を養う。また、地域理解として「しずおか学」科目群の履修も必修とする。
- 2 基礎分野Ⅱ：地域・国際的動向をふまえた、保健医療福祉の課題に対応する看護実践の基礎となる能力を養うことを目的とする。「主体性と判断力の育成」「英語コミュニケーション」「運動」「研修」「教育」の5科目群からなる。
- 3 専門基礎分野：人間の健康、生活・社会の理解及び看護実践の基礎となる科学的知識を看護専門分野の履修に先立ち修得する。「人間と人間生活の理解」「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」「健康支援と社会保障制度」の4科目群からなる。
- 4 看護専門分野：個人、家族及び集団の健康ニーズに対応した看護実践に必要な専門知識・技術の修得を目的とし、「専門分野Ⅰ」「専門分野Ⅱ」「統合分野」の3科目群からなる。

- 1) 専門分野Ⅰ：看護学の理念的理解と人間の健康生活を支援するための基本的な看護方法や技術を修得する。
- 2) 専門分野Ⅱ：看護の基本的理念を基に、人間の発達段階と健康レベルに対応する看護方法について学ぶ。加えて少子高齢社会の進展や慢性疾患の増加、医療の高度化・専門化に対応した専門領域の看護方法についても学ぶ。さらに、演習を通して領域・分野毎の看護方法や看護技術を修得し、理論と実践の統合を目的とする臨地実習を行う。
- 3) 統合分野：看護の基本的理念を基に、在宅・地域などの看護活動の場に対応する看護方法について学ぶ。そして、健康長寿延伸の取り組みや静岡型地域包

括ケアに関連した演習や実習を通して看護方法や看護技術を学ぶ。さらに、4年次の「卒業研究」「発展看護実習」等を通じて、看護専門分野の教育内容の統合を図る。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/faculties/nursing/nur-policy/）
（概要） 看護はあらゆる「ひと」を対象にし、すべての人々が健康な生活を実現できるように支援する。本学部は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）に定める人材を育成するために、次に掲げる知識・技能や能力、意思を備えた人を求める。 1 日本語および英語による聞く・話す・読む・書くというコミュニケーションの基本的な能力を身につけている。 2 ものごとを論理的に探求するために必要な高等学校の教育課程をバランスよく修得している。 3 多様な価値観を尊重し真摯な態度で「ひと」に向きあえる。 4 地域社会に看護職者として貢献する意思を持っている。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：公表方法：ホームページに掲載 https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/guide/outline/organization/

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	6 人	－					6 人
薬学部	－	19 人	16 人	12 人	23 人	人	70 人
食品栄養科学部	－	20 人	9 人	1 人	25 人	人	55 人
国際関係学部	－	25 人	19 人	6 人	4 人	人	54 人
経営情報学部	－	14 人	8 人	5 人	4 人	人	31 人
看護学部	－	10 人	10 人	8 人	28 人	人	56 人
大学院	－	3 人	3 人	1 人	3 人	人	10 人
言語コミュニケーション研究センター	－	1 人	人	人	人	人	1 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		162 人					162 人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法：ホームページに掲載 https://db.u-shizuoka-ken.ac.jp/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
学内に F D 委員会を設置し、F D 事業本来の目的に立ち返るという基本方針のもと、F D 活動のチェックを行いつつ、継続的な事業の実施を行っている。実施内容は、学生による授業評価アンケートの実施、講演会の実施等で、ホームページに掲載している。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
薬学部	120 人	134 人	112%	640 人	702 人	110%	人	人

食品栄養科学部	70 人	77 人	110%	280 人	326 人	116%		
国際関係学部	180 人	202 人	112%	720 人	865 人	120%	人	人
経営情報学部	125 人	135 人	108%	500 人	552 人	110%		
看護学部	120 人	119 人	99.1%	530 人	483 人	91.1%	25 人	0 人
合計	615 人	667 人	108%	2670 人	2928 人	110%	25 人	0 人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
薬学部	109 人 (100%)	37 人 (33.9%)	68 人 (62.4%)	4 人 (3.7%)
食品栄養科学部	79 人 (100%)	38 人 (48.1%)	41 人 (51.9%)	0 人 (0.0%)
国際関係学部	190 人 (100%)	3 人 (1.6%)	171 人 (90.0%)	16 人 (8.4%)
経営情報学部	131 人 (100%)	4 人 (3.1%)	122 人 (93.1%)	5 人 (3.8%)
看護学部	124 人 (100%)	6 人 (4.8%)	116 人 (93.6%)	2 人 (1.6%)
合計	633 人 (100%)	88 人 (13.9%)	518 人 (81.8%)	27 人 (4.3%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
※様式第 2 号の 3-1 に掲載

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
※様式第 2 号の 3-2、及び 3-4 に掲載				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要となる単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
薬学部	薬科学科 (平成 30 年度以降入学生)	132 単位	有・ ☐ 無	単位
	薬科学科 (平成 27～29 年度入学生)	141 単位	有・ ☐ 無	単位
	薬科学科	141 単位	有・ ☐ 無	単位

	(平成 25・26 年度入学生)			
	薬学科 (令和 6 年度以降入学生)	194 単位	有・無	単位
	薬学科 (平成 30 年度～令和 5 年度 入学生)	193 単位	有・無	単位
	薬学科 (平成 27～29 年度入学生)	195 単位	有・無	単位
	薬学科 (平成 25・26 年度入学生)	192 単位	有・無	単位
食品栄養科学部	食品生命科学科 (令和 8 年度以降入学生)	130 単位	有・無	単位
	食品生命科学科 (令和 5 年度以降入学生)	132 単位	有・無	単位
	食品生命科学科 (令和 3 年度以降入学生)	133 単位	有・無	単位
	食品生命科学科 (令和 2 年度以降入学生)	137.5 単位	有・無	単位
	栄養生命科学科 (令和 4 年度以降入学生)	137 単位	有・無	単位
	栄養生命科学科 (令和 3 年度以降入学生)	135 単位	有・無	単位
	栄養生命科学科 (令和 2 年度以降入学生)	141 単位	有・無	単位
	環境生命科学科 (令和 3 年度以降入学生)	124 単位	有・無	各年次 50 単位 (令和 7 年度入学生より)
国際関係学部	国際関係学科 (平成 31 年度以降入学生)	124 単位		
	国際言語文化学科 (平成 31 年度以降入学生)	124 単位		
経営情報学部	経営情報学科 (令和 2 年度以降入学生)	134 単位	有・無	

看護学部	看護学科 (令和4年度以降入学生)	126 単位	有・ ☐ 無	単位
	看護学科 (平成30年度から令和3年度までの入学生)	125 単位	有・ ☐ 無	単位
	看護学科 (平成29年度以前入学生)	133 単位	有・ ☐ 無	単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：ホームページに掲載 https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/campuslife/		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：ホームページに掲載 https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/guide/campus-map/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
薬学部	薬科学科	535,800 円	141,000 円（県内） 366,600 円（県外）	0 円	
	薬学科	535,800 円	141,000 円（県内） 366,600 円（県外）	0 円	
食品栄養科学部	食品生命科学科	535,800 円	141,000 円（県内） 366,600 円（県外）	0 円	
	栄養生命科学科	535,800 円	141,000 円（県内） 366,600 円（県外）	0 円	
	環境生命科学科	535,800 円	141,000 円（県内） 366,600 円（県外）	0 円	
国際関係学部	国際関係学科	535,800 円	141,000 円（県内） 366,600 円（県外）	0 円	
	国際言語文化学科	535,800 円	141,000 円（県内） 366,600 円（県外）	0 円	
経営情報学部	経営情報学科	535,800 円	141,000 円（県内） 366,600 円（県外）	0 円	
看護学部	看護学科	535,800 円	141,000 円（県内） 366,600 円（県外）	0 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
（概要） 全教員が学生生活の支援を組織的かつ総合的に行うため、学部ごとに学生数名に対して教員1名をアドバイザーとして配置しており、修学や学習に関する助言、学生生活や対人関係に関する助言などを行うアドバイザー制度を設けている。 また、障害学生支援室では、コーディネーターが障害を抱えている学生の修学上の相談に応じ、合理的配慮が必要であると判断された場合は、教員や事務局を交えて具体的

支援を検討し、コーディネートしている。障害が無い場合でも、修学上の困り事などの相談に応じている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) キャリア支援センターを設置して、就職活動に関するガイダンス、講座等を開催している。また、就職アドバイザーを配置して学生の就職・進路の相談に個別に相談を受けている。大学に送られてくる各企業、病院・施設、団体等からの求人票、公務員等の採用試験案内等を学生に情報提供する他、先輩の就職活動報告書、就職活動対策書籍、就職関連資料、パソコンなどがあり、キャリア支援センター内の資料は自由に閲覧・利用ができる。利用可能時間は、毎週月曜日～金曜日、午前8時30分から午後5時まで。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 医務室では、看護師が常駐し、軽い怪我や病気の応急処置、健康相談、医療機関の受診相談などを行っている。救急薬品を常備し、静養のためのベッドを設置している。 健康増進室では、体脂肪率・BMI（体格指数）などの健康度測定ができるほか、エアロバイク等の軽い運動をしたり、マッサージチェアを利用してリラックスしたりすることもできる。また、健康相談活動も行っている。 相談室では、学業や対人関係の悩み等学生生活全般にわたる悩みを抱える学生に、臨床心理士等の資格をもった相談員が対応している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：ホームページに掲載 https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/
--

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。